



令和6年4月に会長を拝命し、本年度で3年目を迎えました。石川県白山市立美川中学校事務職員の宮本健司です。当研究会のホームページをご覧ください、心より御礼申し上げます。石川県公立小中学校教育事務研究会は、県内19市町が設置する小学校・中学校・義務教育学校に勤務する事務職員有志と、自治体単位の事務研究組織を代表する校長先生方によって構成されています。本会はあえて「教育事務を研究する会」という名称を掲げ、事務職員が教育活動に主体的に関わる姿勢を大切にしてきました。

2017年の学校教育法改正により、事務職員の職務は「事務に従事する」から「事務をつかさどる」へと位置づけが変わりました。改正から9年が経過した今こそ、名称に込めた「教育事務を研究する」という理念を実践し、その役割にふさわしい専門性を高めていく時期であると考えています。

私事ではありますが、会長就任の前年に父を亡くし、母も介護を要する状況となったことで、実家の整理を進める中、父が世話していた植木鉢を自宅に持ち帰りました。そのうちのひとつであるツツジは、これまで一、二輪しか咲かなかったものが今年は満開となり、赤とピンクの二種類が植えられていたことに初めて気づきました。

業務改善の成果は目に見えやすい一方、研究活動、とりわけ県全体での取り組みは成果が見えにくい側面があります。しかし、父の植木鉢が教えてくれたように、丁寧に取り組むことで思いがけない発見が生まれることもあります。現在、研究部では北海道教育大学函館校・川口有美子先生の助言を得ながら、文部科学省の職務標準例を基に事務職員の業務実態を把握する調査票の開発を進めています。研究活動の基盤となる「R（リサーチ）」を担う重要な取り組みです。

今後の活動についてご紹介します。8月21日には第68回研究大会を開催し、「学校事務職員の強みを活かした学校マネジメント」をテーマに、学校法人湘南学園前学園長・住田昌治氏を講師にお迎えします。また、金沢小地区と羽咋地区による研究発表も予定しています。

さらに、令和9年3月5日にはセミナーを開催します。新たな取組として、研究大会発表前年の地区と共催する「地区共同研修」を開始し、今年度は7月28日に七尾鹿島地区で「学校の防災力向上のために」をテーマに、倉敷市立倉敷東小学校事務副参事・中塚華子氏をお迎えします。最新の知見を共有し、会員一人一人の資質・能力向上を図ってまいります。

また、ホームページについても、会員向けコンテンツの充実に加え、一般の方々にも事務職員の役割や存在をより理解していただけるよう、内容の整備を進めてまいります。

学校は多様なスタッフによって支えられています。事務職員もその一翼を担い、子どもたちの豊かな学びとウェルビーイングの実現に寄与する存在です。日々の業務に誠実に向き合いながら、工夫と改善を重ねていきましょう。

